

5thD-テーブル 総評

文責 桑野 伊藤

～目次～

- ① 議論の流れと所感
- ② 順位選定理由とコメント
- ③ おまけ

[Table Member]

古郷(慶應3) 齋藤(芝工3) 長江(慶應3)
天野(青学3) 戸田(法市3) 岩崎(青学3)

※議論の流れについてはあくまでジャッジ陣の理解であり、テーブル内との差があるかもしれないがご了承ください。

① 議論の流れと所感 (文責：桑野)

いつも通りの **narrow** に対して古郷が **Suggestion** という形で議論のやり方へ意見を提示することから議論が開始した。この提案の内容は、簡単に言えば **quantification** というコンパリのやり方を取ろう、というものであり、**all AD vs all DA** で比較をすることを目的とする提案であった。**AD** と **DA** を思いつく限り集めて、1~100 点までの間で参加者が点数をつけて平均点を取り比較を行う、というものである。実際にはこれよりずっと細かい点まで言及がなされていたがここに書くのは少し躊躇われるので興味がある人がいれば古郷に直接聞くかジャッジに質問してほしい。ここでの提示の文言が **Suggestion** であったため一応「提案であった」と述べてはいるが、古郷が冒頭でそれを承諾しない場合は非現実的な量の反論がある(14 個だか 15 個だか)上、その無数の反論群の内 1 つでも成立すれば提案を承諾しなければならない、という内容を宣言していたため実際には提案を承諾するかそれとも古郷を納得させるかの 2 択のみであるように思われた(少なくともテーブルメンバーはそうのように理解しているように見えた)。この提案に対して戸田と天野が **Q** で内容理解を進めていったが両者のアプローチは若干異なったものであった。戸田はなぜ通常の **narrow** ではいけないのか、もしこの提案に乗ったら(乗らなかったら)どうなるのか、**SOH** や **NFC** は？といった基本的な **QC** を行っていたが、天野は古郷の提案に対して、この提案は通常の **narrow** の何を否定するものであるのか、**quantification** によってどのような結論が得られるのか等少し内容に踏み込んだ点を引き出しつつ通常の **narrow** でも古郷の話したい内容は話すことが出来るということを主張した。ここで天野が「この提案はコンパリ前にもう

一度出すべきものである」という S を出し、それに乗るかどうかという場面で古郷が新たな S を提示した。これについても後ほど詳しく解説するが、簡潔に説明すると「いつも通りの O/T のモデルオピニオンシートでは生産性が上がらないから新しいトピックあるいは新しい **Mandate** で議論をしよう！というものであった。この S についても戸田と天野が Q を行い、この提案に乗ったら（乗らなかったら）どうなるのか、どのような **Mandate** であれば古郷の要求を満たすことが出来るのか等が明らかになっていった。結果齋藤が「自分はモデルではないオピシを持っている」という発言をしたことを皮切りに次々と皆がそのような発言を始め、結果古郷の提案に乗ることなく古郷の要求を満たした議論が進むこととなり、ここで戸田の質問から古郷が最初の提案について天野が出していた S に乗ることを承諾することが確認され、通常通りの手順で議論が進むこととなった。

OP 立候補は天野、齋藤、長江、古郷、戸田の 5 名であった。簡潔に各人のオピシの中身を示しておくので興味があったら本人に聞いてみてほしい。

天野：自殺希望者の臓器提供を強制する。

齋藤：脳死者とその家族の意思、どちらが尊重されるべきであるかという点を比較してからそこに関して矛盾のない法律を制定すべきである。

長江：医療用の大麻を合法化する。

古郷：臓器売買を認めることによって win-win な関係を生み出しつつ市場均衡に任せることで需給を一致させる。

戸田：死刑囚に臓器提供を強制する。

投票によって天野が OP に選ばれ議論が開始した。改めて古郷の提案はコンパリ前で再度提示されることが共有された上で、「自殺志願者」とはどういった人間を指すのか、なぜ彼らを臓器提供者として選んだのか、といった基本的な質問がなされた。NFC では戸田が「人の臓器を使うということはそれだけ人間を失っているのだ」という趣旨の反論を提示したが自身で **praca** へと流れることを認め収束した。その後岩崎により「自殺志願者に安楽死を認めてもいいのではないだろうか」といった旨の提案がなされたが承認されず、戸田の **praca** アイデア検証中に時間がきて議論が終了となった。

[所感]

古郷の提案に対して、通常の **narrow** 内で話そうという意見が出ていたこと自体は悪くない方向性であると思うが、そればかりではなくもう少し内容面に踏み込んだやり方はなかったのか。あるいは、もう少しお互いの妥協点を見出すことは出来なかったのか。D-テーブルという性質上、内容面の深さがないのは仕方ないにしても「1 位を取る」ために必要な存在感アピールをする人がもう少しいてもいいのでは、という印象を受けた。

② 順位選定理由とコメント（文責：伊藤）

第1位：戸田（法市3）

圧倒的なカンファメーション能力を評価し、第1位に選定した。量・質共に申し分なく、終始テーブルの理解度に貢献し続けていた。顕著な例として、ナローイングでの古郷の1つ目のSを単純明快なプロシージャ―へと変換したカンファメーションがある。これはテーブルの理解度を深めただけではなく、進行度という面においても大きく貢献したと言えるだろう。しかし、テーブルにおいて圧倒的な1位ではなかった。議事進行能力においては、天野に劣っていたためである。今回のテーブルで戸田以外にカンファメーションを武器とするディスカッサントが居た場合、天野の議事進行能力が際立つことで、順位は変わっていただろう。

アッセンブリーでは、一芸に秀でることは非常に重要である。なぜなら参加人数が多いテーブルにおいて、その役割を担うことができるからである。残り3か月、自慢のカンファメーションを磨いてほしい。

第2位：天野（青学3）

議事進行能力を評価し、第2位に選定した。ナローイングでの古郷のSを収束させ、オピニオンプレゼンターとして後半の議論の土台を作っていた。ナローイングでの対応は非常に紳士的であり、好感が持てた。それが後のナローイング収束、オピニオンプレゼンターへの選出に繋がったと考えられる。1位との差はカンファメーションの量である。また、オピニオンプレゼンターの役割・任務を果たせなかったことも、天野が2位である大きな原因だ。ナローイングで大幅に時間を削られてしまったことを考慮したハンドリングを行うべきであった。

課題は明確であり、アッセンブリーまでの伸びしろは十分である。ただ、上位テーブルでの戦い方には考慮が必要だ。

第3位：岩崎（青学3）

積極的なQを評価し、第3位に選定した。岩崎はナローイング終了後からQでの介入を議論終了時まで頻繁に続けていた。しかし、CとSという点において上位2名との差は明らかであり、4位以下においては僅差であった。

Qだけでは得点源にはなり得ない。アッセンブリーまでに、上位2名に勝てるCとSの成長に期待する。

第4位：長江（慶應3）

オピニオンプレゼンターの定義へのダウトを評価し、第4位に選定した。長江は介入量が少なく、この点が3位との差になっている。

長江は古郷と同じくナローイングで戦ってきたと聞いていたため、なぜその武器を出さなかったのか疑問である。1位になるためには、何かしらそのテーブルで秀でる必要がある。アッセンブリーでは、ぜひお目にかかりたい。

第5位：古郷（慶應3）

テーブルへの貢献が少なかったため、第5位に選定した。古郷はナローイングでの2つのSを通して、議論の活性化を促していた。しかし、結果としてテーブルに残ったものは皆無であり、積極的に評価することはできなかった。

テーブルに残すためには、何かを議論することが必要である。今回の古郷の場合は、Sの説明→Sの理解→収束という単純なステップを、時間をかけて行っただけにすぎない。なぜ古郷のSに乗れば通常よりも適切な結論が出るのか。ここを証明(議論)するだけで、大幅にテーブルへの貢献度は変わるだろう。なぜなら、この議論によって日本政府の結論の導き方に大きな影響を与えるからである。アッセンブリーでは、真のダークホースへと進化していることに期待する。

第6位：斎藤（芝工3）

介入量が少なかったため、第6位に選定した。

前述したように、3位までの差は僅差である。最後まで諦めず、少しでもテーブルの貢献度を上げられたら、順位は大幅に変わっただろう。このコメントをアッセンブリーで言われたいことに期待する。

③ おまけ (文責：桑野)

Narrowing について好き勝手書きます。ヤマトくん (立教4) にレクチャー今までにないようなものを書いて！と言われたのですがレクチャーとして書くほど大層なものにはなりそうもないので巻末付録っぽくここに残しておきます。軽くタイトルを見て回った限り、意外と「**narrowing**」について書いているレクチャーがないんですね。希望が多ければレクチャー資料としてここだけ別にして膨らませてもいいんですけど、ひとまず思ったことを好き勝手書くだけにとどめておきます。

最初に断っておくと、僕は **narrowing** への反論については賛成でもあり、同時に反対でもあります。賛成である理由としては、そもそも現状の **task** (と皆が考えている概念) を厳守したらオピシ上に論点なんか存在しえないこと、勝つために最も早く意見提示を行えるエリアであること、議論を行う上で最も深い内容に踏み込むことが出来る可能性を秘めていることがあります。一方反対な理由としては、出てくるアイデアのほとんどが詰まっていないものである (そもそも **narrow** へのアイデアを詰めきることはかなり困難) こと、現状の流れの中で「**narrow** への反論はやばいやつのすること」という認識があること、などです。僕自身のスタンスをご理解いただいた上で興味があればこの先についても目を通してください。

さて、何故 **narrowing** について書くか。簡単に言うと「確率は低いけど、どの層にとってもメリットがあるから」です。上位層にとっては、アッセンの 1st で **narrow** への反論が来た時にあたふたして 1 位を逃さないため、中位層にとってはあたふたしている上位層を喰うチャンスとして、そしてそもそも **narrowing** についてあまり考えを巡らせたことがない人にとってはこれを考えるきっかけとして、何かの役に立てばいいかなと思います。

早速、他のレクチャーに則っていくつか問いを投げかけてみたいと思います。とはいっても、○×形式ですので気軽に考えてみて下さい。

- ① **narrow** で決めているのは私たちの議論の結論の定義である。
- ② **topic** についても **narrow** で共有されている。
- ③ 1AD と 1DA を比較することが決定される。
- ④ 我々の **task** が **m/s/b** であることが決定される。
- ⑤ **narrowing** は **Suggestion** である。

ちなみに、個人的には①②⑤が○で③④は×です。人によって③④は異なるかも知れませんね。①②⑤が×だった方、是非話し合しましょう。

個人的な見解ですが、①②⑤以外で **narrowing** において **narrowing** できちんと定義されている部分ってないと思います。つまり **narrowing** とは「とりあえず医療論題で **PDD** やろう、という提案」にしか過ぎず、逆に言えばそれ以外の部分には反論の余地がありえてしまうということになります。ここまで反論の余地があるエリアってディスの中でもここだけですよね。しかも本来 **narrowing** は **Suggestion** であるから、反論するにあたり立証責任を背負う必要はないんですよ。圧倒的に出し手が不利なのが **narrowing** なのに何で皆取りあうのでしょうか。恐いもの知らずなのでしょうかね。

ちょっと本題から逸れてしまいました。要は **narrow** っていうのは結構反論の余地があるってことです。にも関わらず僕は **narrow** への反論が通ったケースを見たことがないです。何故でしょうか？一言でいえば「誰も正しい対処法を知らない」からです。対処法を知らないからこそ相手のアイデアのうち一部を切り取ってそれはいつものやり方でも出来るよ！という意見が強さを帯びるし、反論側に対し「こいつ何やってるんだ」感が出ちゃうんです。つまり逆に言えば正しく **narrowing** を理解してさえいればワンパターンな対処をする必要はないからテーブル内で個性を発揮できるし、ありきたりな流しをしてこようとする人に対して確固たる意見を提示することもできるんです。

前置きが長くなりました。そろそろ本題に入ります。

～目次～

- ①**narrow** で反論できるポイント解説、及びその対処法
- ②**narrow** について考えることが持つ意味
- ③最後に

①**narrow** で反論できるポイント解説、及びその基本的な対処法と感想
簡単にですが、**narrowing** において突っ込みが可能なポイント、及び自分が対処するとしたらどのような方法があるのかについて書き残しておきます。ほとんど全ての **narrow** アイデアはこの4つに集約されると思っています。もし例外が出たら教えて下さい。基本的な考えるべきポイントと自分が思う「強い反論」を載せておくので一アイデアとして参考にしてくださると幸いです。

・**task** は **m/s/b** である。→他に **task** を足す余地があります。一方で **m/s/b** の定義が「一をなくすこと」であるとするならば、他に足される全ての **task** はこれに包括可能な概念であるということも可能です。また、新しい **task** を足されたとしても、その **task** を達成するための手段が通常通りのコンパリであるとすればそれはおかしい話であり、逆に新たなコンパリや方法論が提示され

たとしても手段と目的が不一致ということが往々にしてあります。

・1AD と 1DA の比較を行う。→必ずしもそうである必要はありません。**Narrow** への代表的な反論ですね。All AD vs All DA といった意見がよく出てきます。常識的に考えて、なるべく多くの良い事となるべく多くの悪い事を比較した方が良いに決まっています。ただ、1 つではだめだからといって全てのいいことと悪いことを比較しなければならないのでしょうか。ここについて追及する人がいないことを常日頃から残念に思っています。全ての+である必要がないのであれば当然全ての-である必要もないので、恣意的に+と-を選ぶ必要が出てきますがそれは通常の **narrowing** と比べてどのような優位性があるのでしょうか？all vs all を比較する方法論に抜けもれがあることを指摘しても面白いかもしれませんね。

・比較の方法論について→コンパリは 3 つの **criteria** を使うこと、ロジックの数で勝負すること、AD>DA から検証すること...などなど。ここについては挙げればきりがありません。日頃当たり前のようにやっていることが当たり前ではないということを認識できるかどうか、気づいた点を議論の場に上げるだけのアイデアの深さがポイントです。Add criteria については、個人的には面白い概念だと思います。そもそも 3 impact のゆるゆる感が凄まじいということには(これを読んでいる)多くの人が気づいているとは思いますが。詳細は先輩方が書いて下さっているコンパリレクチャーに多くあるので割愛しますが、m/s/b という広い概念を比較する上で、QL(TG の辛さ)、QT(TG の数)、TG(その他)の 3 つに分けていること、またそれが当たり前のように罷り通っていることはとんでもないので、新しく比較軸を置くことは間違いではないですよ。New criteria 置かれたくない人たちはその辺りを考えてみてはどうでしょうか？

・topic あるいは mandate について→「〇〇論題においてはこういう内容を考えるべきだ！」や、「〇〇という topic は相応しくない」などです。議論の内容をこの段階で制限することは一見理不尽にも思えますが、生産性を考えてみるとそこを絞って深く議論を行うことはある種の正当性があります。ただ、その制限の内容を絞り込むことに時間を費やすことは本末転倒である点を指摘すれば一瞬で瓦解してしまうアイデアでもあります。たまに見る「いつものやつより見たことないディスをしたい！」系のものについても、いつも通りの話し合いでは生産性が低い、やその方がディスが楽しい！という内容のものは基本的に「本末転倒」という意見が当てはまることが多いように感じています。

②narrowing について考えることが持つ意味

そもそもメリットがあるから narrow について考えてみよう、という考え方でと先が思いやられますが一応載せますね。

- ・質問力が上がる

当たり前のことを当たり前だと受け取らず、そこに疑問を持つ力はディスの中で必ず役に立ちます。相手が出してきた **objection** の前提を疑ってみたり、**data** と **warrant** が繋がっているか、意味合いは本当に同じであるか、といった点まで疑問を持つことが出来るようになるためには、「当たり前」の代表格である **narrowing** について考えてみてもいいかもしれませんね。

- ・反論を考えられる

上の方で説明しましたが、いわゆる **task** というものを遵守する限りオピシ上に論点となりえる部分はほとんどないです。逆に、**narrow** と絡めた反論を作成することが出来たとしたらそれはとても強い反論になります。人の反論を流す、あるいは自分の反論を通すうえで **narrow** を考えてみることは役に立つかもしれません。

- ・ **narrow** に対して動揺しない

これが最大のメリットです。他の人がどんなことを **narrow** に対して言ってきたとしても動揺せず対処をしっかりとすることが出来ます。これに尽きます。

③最後に

今回(2017年)の春セミでは **narrow** への反論が多発しました。その現象自体には肯定も否定もしませんが、それに対する対処の拙さに少々がっかりしてしまったことがこの文章を書くに至った経緯です。自分自身上手に取り扱うことが出来るかと言われたら自信を持って答えることは出来ませんが、少なくとも一定の信念を持って否定することは出来ます。**Narrow** への反論の 99%は内容が詰まってない上反駁することも容易いのに、動揺した多くの人がよくわからない質問を繰り返して本質から離れてしまう状況が春セミでかなり見られたことは残念です。

一人でも多くの人が **narrow** への反論を「落ち着いて」対処してくれるようになることを祈ってます。